

# 決算総括および今後の経営方針

---

2014年5月14日

太陽誘電株式会社  
代表取締役社長 綿貫英治

# 2014年3月期 通期業績サマリー

(単位:億円)	2013年3月期 実績	2014年3月期 実績	増減率	増減額
売上高	1,929	2,082	+8%	+153
営業利益	49	114	+134%	+65
経常利益	71	122	+71%	+50
当期純利益	19	70	+274%	+51

(四捨五入)

## 【2014年3月期の問題点】

- MCOIL™ : 採用モデルの生産変動と商品ラインアップ不足
- 通信デバイス: フロントエンドモジュールの商品開発遅延

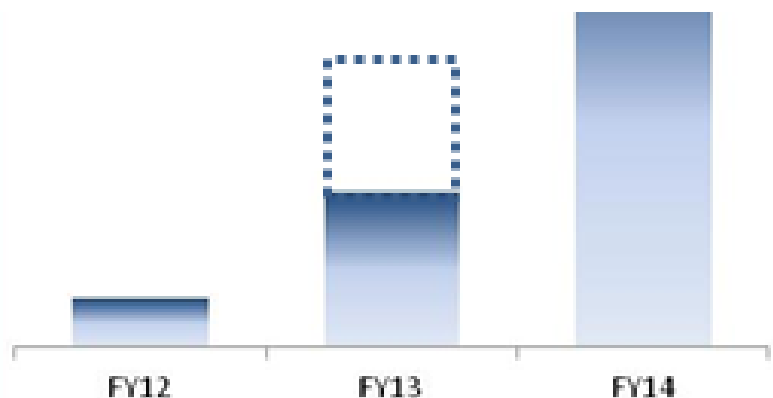


SHE商品売上高比率の未達

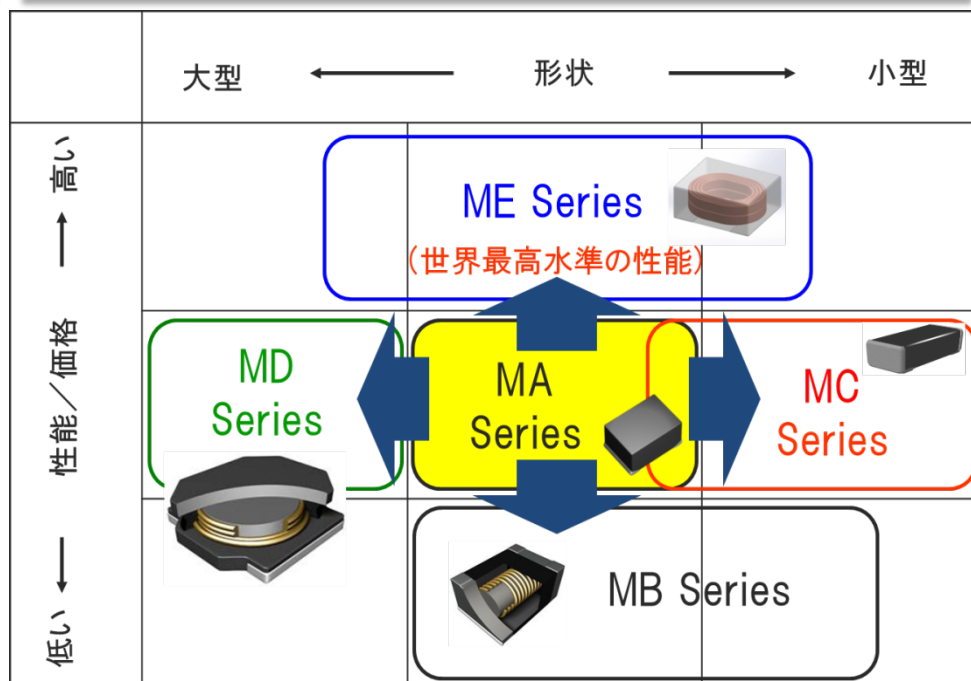
# 課題商品の対策①(MCOIL™)

## MCOIL™売上高推移

商品ラインアップ不足  
による伸び悩み



## ラインアップの全方位化による拡大



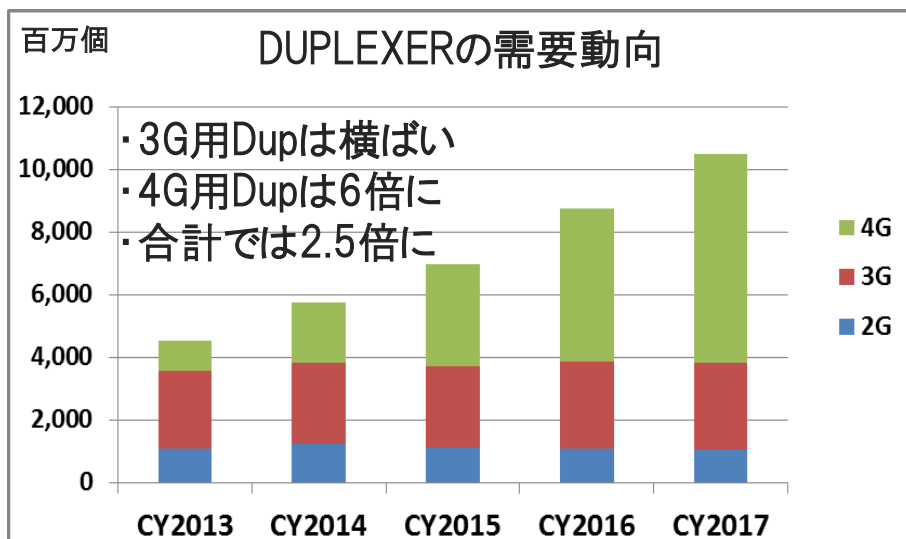
量産スケジュール	FY13	1QFY14	2QFY14	3QFY14	4QFY14
MA(標準タイプ)	能力拡大 量産展開中				
MD(大電流化)	量産展開中(順次大型化展開)				
MC(小型低背化)			2Qより量産開始		
ME(ハイスペック化)			2Qより量産開始		
MB(コストパフォーマンス対応)		4Qより量産開始			

# 課題商品の対策②(通信デバイス)

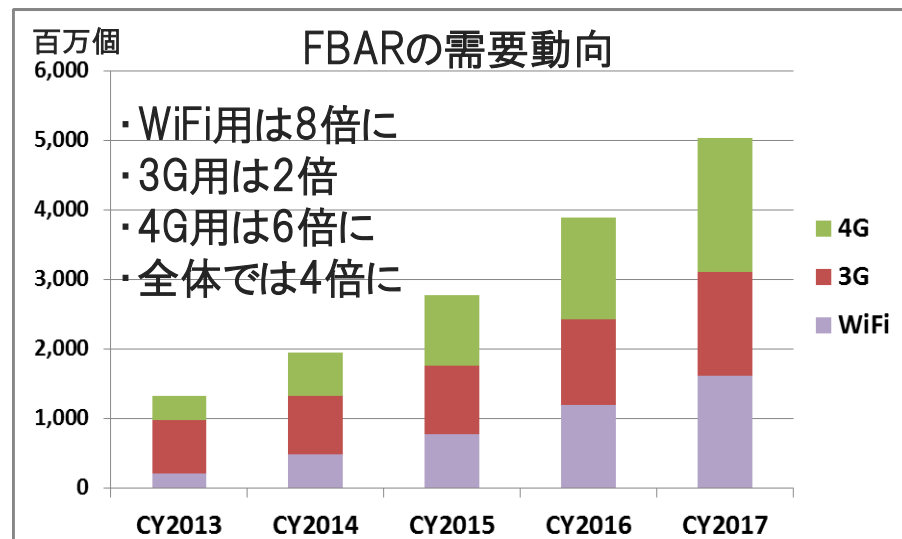
## 市場トレンドの3つの変化

- ①多バンド・高周波化      ②バンドの近接化      ③モジュール化:FEMiD⇒PAMiD

## DUPLEXER、FBARの需要拡大



弊社予測値

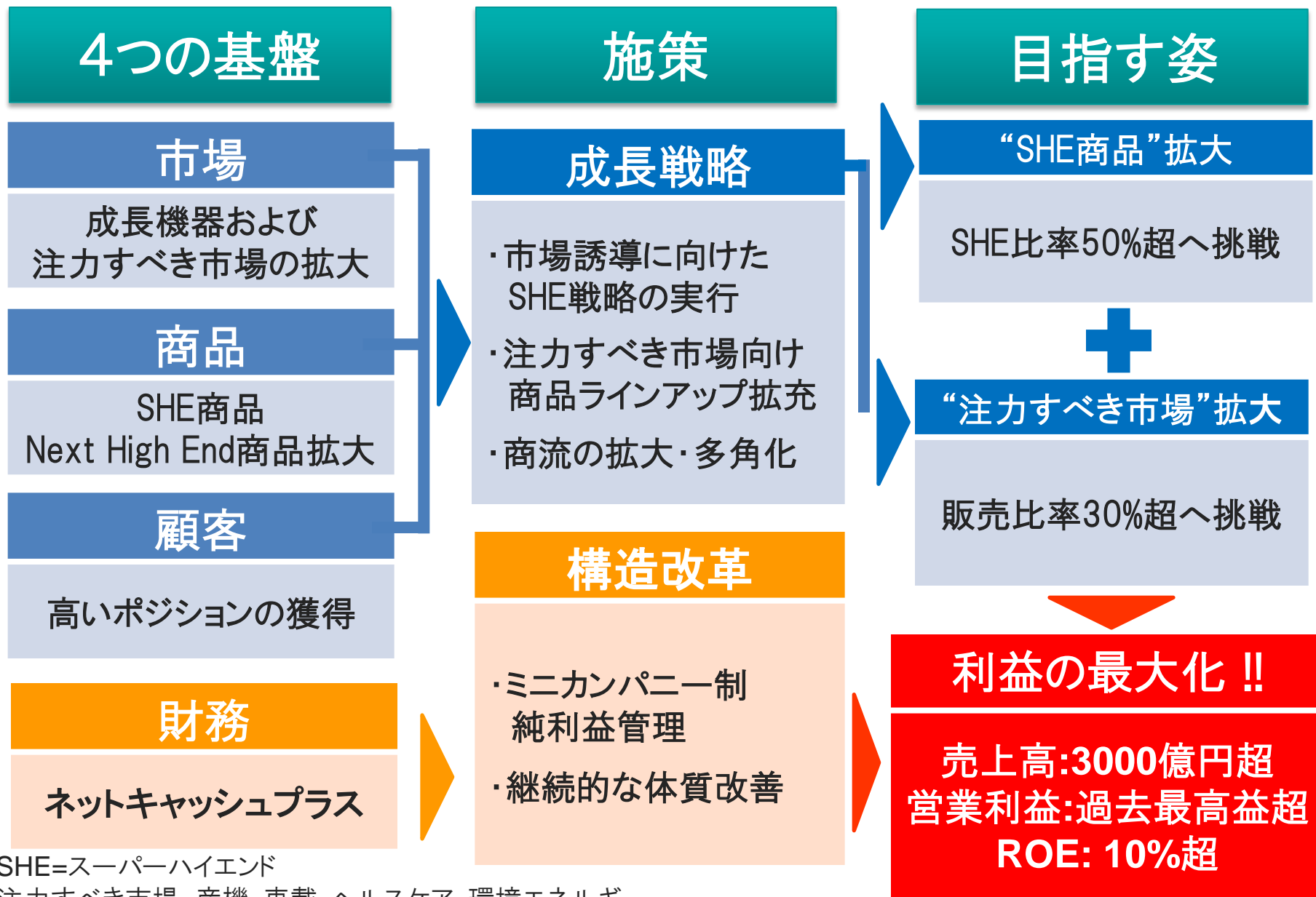


弊社予測値

## 通信デバイス拡大施策

- ①青梅事業所設立による増産体制構築      ②SAW+FBARのハイブリッド技術強化  
③小型・低背・内蔵・TC・High-Q化技術強化

# 基本戦略と目指す姿

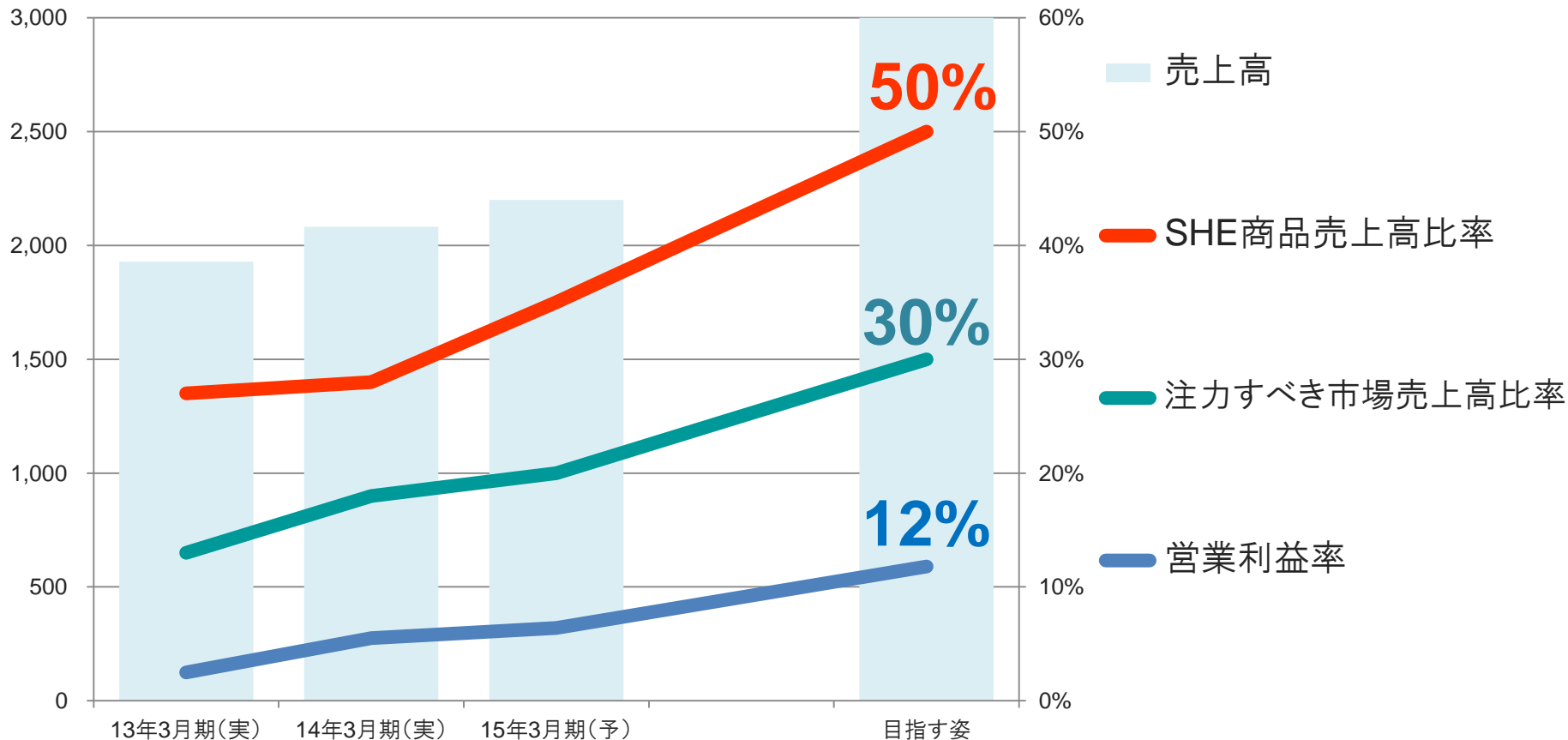


※SHE=スーパーハイエンド

※注力すべき市場=産機・車載・ヘルスケア・環境エネルギー

# 目指す姿に向けての重点指標

(単位:億円)



SHE商品と注力すべき市場向け比率の拡大



景気変動型企业から脱却し、利益最大化を目指す

# 主なスーパーハイエンド商品群

## スーパーハイエンド商品の定義

- ①ワールドワイドNo.1期待
- ③成長市場向け

- ②業界2.5社のみ展開
- ④顧客が求める強い商品力

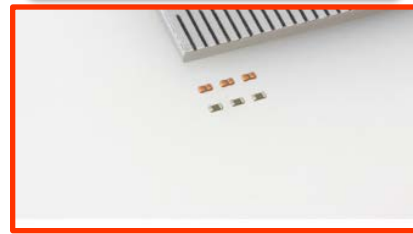
### コンデンサ

#### 小型大容量MLCC



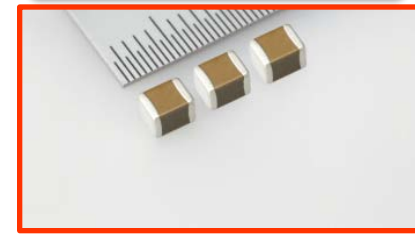
各サイズで世界初の大容量

#### 超低背MLCC



低背で業界をリード

#### 超大容量MLCC



330  $\mu$ Fの大容量実現

#### パワーインダクタ



MCOIL™ラインアップ拡大

#### 高周波積層チップインダクタ



業界No.1のHigh-Q

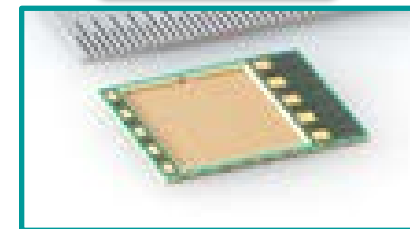
#### 積層コモンモードチョークコイル



独自工法でハイパフォーマンス

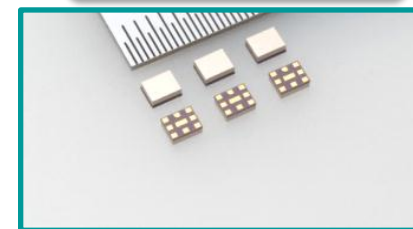
### インダクタ

#### EOMIN™



世界最高の高密度基板

#### 通信デバイス



SAW/FBARハイブリッド化

#### 先端通信モジュール



先端高密度実装+高周波技術

### 複合デバイス

# 注力すべき市場の商品展開①(自動車電装)

車載市場のトレンドにミートした高信頼性ハイパフォーマンス商品群の強み

- ・生産実績に裏打ちされた作りこみ品質
- ・原材料・生産設備から自社一貫生産によるグローバルでの供給体制
- ・商品力と提案力強化により、「Tier 1」メーカーへの採用拡大中



# 注力すべき市場の商品展開②(産業機器、ヘルスケア、環境エネルギー)

産業機器

コア技術の組合せによるシステムソリューション提案

ヘルスケア



太陽光発電



高速道路・橋梁



ワイヤレスセンサーネットワーク



離床センサ



高速可視光通信モジュール  
電波が使えない場所での高速通信



インフラのモニタリング

複合技術

EOMIN<sup>TM</sup>(部品内蔵基板)

超小型BLEモジュール



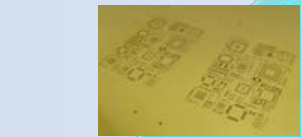
表面処理

無線技術

撥油  
抗菌  
高効率生産

エネルギー回生システム

高い回生効率と静音設計



機能性表面処理膜  
メタルマスク

積層技術

電源技術

高変位、低容量  
鉛レスの実現

エネルギー密度はEDLCの4倍



圧電アクチュエータ

トルクや変位の  
高精度測定

アーカイブ

リチウムイオンキャパシタ

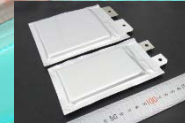
建築物の変位測定



光変位センサ



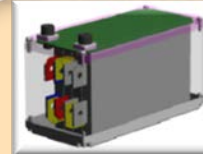
光記録メディア  
官公庁、図書館  
古文書館



回生システム



風力発電



環境エネルギー

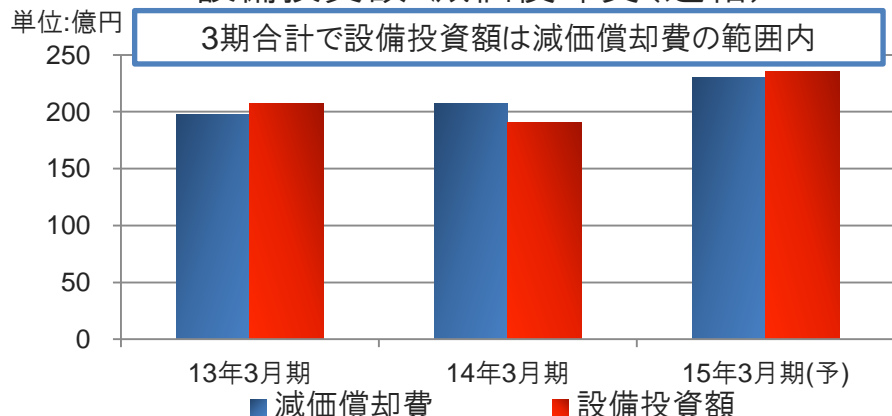
# 2015年3月期 主要製品の売上高予想とポイント

(単位:億円)	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想	増減率	売上増のポイント
コンデンサ	1,042	1,130	+8%	SHE MLCC 25%増
フェライト応用製品	347	410	+18%	MCOIL™ 2.2倍
複合デバイス	424	460	+9%	通信デバイス 40%増

(四捨五入)

## 設備投資額・減価償却費(連結)

3期合計で設備投資額は減価償却費の範囲内



## 太陽誘電モバイルテクノロジー-青梅事業所



**2014年4月、「太陽誘電モバイルテクノロジー 青梅事業所」設立**  
 須坂工場、新横浜事業所を青梅事業所へ集約・機能統合し、通信デバイスの事業拡大体制構築

# 2015年3月期 業績予想および配当政策

(単位:億円)	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想	増減率	増減額
売上高	2,082	2,200	+6%	+118
営業利益	114	140	+23%	+26
経常利益	122	140	+15%	+18
当期純利益	70	85	+21%	+15
(四捨五入)				
為替レート(1US\$)	99.61円	100円	—	—

## 【配当方針】

- 2015年3月期は、年10円配当を継続
- 2016年3月期には、ネットキャッシュプラスを目指す  
総還元性向30%へ(配当+自社株買い)

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

**TAIYO YUDEN**